

クリティカルパス推進委員会

日 時 平成23年7月14日 (木)

午後3時～4時37分

場 所 栃木県医師会常任理事会室

出席者 尾形委員長、前原・齋藤(宇)両副委員長、田中・宮原・高田(下)・大橋(小)・漆原(足)・深町(那)・宮澤(南：代)・小川(芳)・井上(獨)・森山(勤務医部会) 各委員

〈オブザーバー〉

尾澤医師(県立がんセンター)、吉澤県保健福祉課課長補佐、渡辺県健康増進課課長補佐

(事務局) 佐々木事務局長、長澤地域医療課長、徳原地域医療係長、川島地域医療係

尾形委員長の挨拶で開会し、次の協議が行われた。

1. 協議事項

(1) 統一パスの決定について

各疾患別部会の委員長及び副委員長より統一パスの素案を提案いただき、若干の修正は加わるものの、統一パスとして試行することが決定した。また、各疾患別パスの名称については、統一化の検討が行われたが、各部会に委ねることとした。

○各パスの概要

・脳卒中部会 (宮原委員長)

脳卒中のパスは保険点数が算定可能であり、各拠点病院を中心に様々なパスが活用されているという実状であった。その中でパスを統一出来るのかという懸念もあったが、栃木県脳卒中協会の協力をいただき、脳卒中に関する医療関係者、拠点病院、専門医療機関、回復期病院の先生方が一同に会し、地域連携パスについて勉強会を行った。それぞれの立場からどのような情報が必要か挙げていただき、栃木県として統一パスを作成するというコンセンサスが得られ、それを基に2回部会を開催し、さらにメーリングリストで情報交換を行い、パスが完成した。特徴としては、記入に際し急性期病院の先生方の負担にならず、また脳卒中の特異性でADLの問題があり、リハビリ関係者、看護師、各病院の地域連携課の方など、様々な立場から記入出来るようにし、エクセルでチェックのみの簡単な記入方法で、さらに必要最小限の情報で運用が出来るよう作成した。脳卒中は、急性期から介護保険に移行する患者も多く、その時点までをパスで運用しようということになった。

計画管理病院と連携する保険医療機関との間で、地域連携診療計画に係る情報交換のための会合が年3回程度定期的で開催されることが、地域連携診療計画管理料の施設基準のひとつであり、現在、計画管理病院(基幹病院)を中心に各々行われているが、回復期病院や維持期病院は複数の計画管理病院と連携しており、多数の会合に参加し

なくてはならなかったが、統一パスが完成・普及すれば年3回の参加で済むようになり、負担が軽減されるのではないかと考えている。

・急性心筋梗塞部会（田中委員長・井上副委員長）

「わかりやすく、運用しやすいパスを作ろう」ということで部会を2回開催し、井上副委員長（獨協）を中心に作成した。患者さん向けには、知ってもらいたい知識。特に心筋梗塞後の再発予防のための生活習慣をはじめ、薬物治療の重要性、運動療法など、患者さんがわかりやすいよう手帳を作成した。急性期病院退院前の冠動脈の状態、心筋梗塞のカテーテルステント治療等の情報や心エコーの所見、左心室駆出率も記載できるようにしてあり、その後は退院後各医療機関でのフォローアップのためのページとなる。非専門医にも記載していただけるように、また患者自身にも数値を認識してもらえそうな項目のみに限定した。さらに見開きの隣のページに薬の情報が貼付出来る欄を設けた。

また、医療者用パスは、急性心筋梗塞は超急性期治療としてPCI（経皮的冠動脈形成術）治療が行われ、その後のフォローアップが重要となるため強調しており、フォローアップ時のデータも記載出来るようになっている。また患者自身にも同じチェック項目のものを退院後のスケジュールとして持っていただくよう手帳にこのシートを刷り込んである。運用率を上げることをメインに、出来るだけ簡略化したものを作成した。

・糖尿病部会（尾形委員長・齋藤副委員長）

かかりつけ医から糖尿病専門医へ送る、また専門医からかかりつけ医に送る（戻してもらう）ことを基本に作成した。

日本糖尿病協会が作成した「糖尿病連携手帳」があり、これには患者に対する教育、患者がかかりつけ医と専門医療機関を行き来する際に必要なデータが書き込めるようになっており、患者用にはこの手帳を使用することになった。その他、かかりつけ医から専門医療機関に患者を紹介する際、あるいは専門医療機関からかかりつけ医に紹介する（逆紹介）際に使用する糖尿病診療情報提供書、さらに専門医療機関からかかりつけ医に紹介する際に添付するよう、詳細な検査結果データを記載するサマリーを作成した。また、紹介患者が来院したことを報告するハガキ（ご返事）、糖尿病医療連携クリティカルパス事業への参加を呼びかける依頼文、パス記載要領等を作成した。

・がん部会（前原委員長・尾澤副委員長）

5大がんの地域連携パスはがん診療連携拠点病院の要件となっており、平成24年3月までに施行しなければならない。3年前からがん診療連携協議会の下に「地域連携パスワーキンググループ」を作り検討を開始した。全国的にがんのパスは進んでおり、東京都のパスを土台に作成した。パスが完成してもそれだけでは運用実現は厳しく、地域連携の基盤を構築しないと連携が図れないということが解り、がん診療連携協議会

の中にある相談支援部会の下に、拠点病院・中核病院の地域連携室や医事課等の責任者の集まりである「地域連携マネージャーワーキンググループ」を作り、15施設の方がメンバーとなりインフラの整備を行っている。

現在3つの郡市医師会に説明会を行い、8月には宇都宮市医師会で説明会を開催する予定となっている。どのように連携を図っていくか、非常に難しい部分もあるが、紹介された患者を紹介元の医療機関に戻していく方法で開始していくことになると思うが、各郡市医師会に説明会を開催する中で理解を深め、連携し合う方法が1番良いのではないかと思っている。

少々書き込むことが多いパスであり、かかりつけ医で採血した結果等を拠点病院のカルテに残しておかなければならない等保険点数上の問題が多々あり、それらの解決が課題となっている。

(2) 各疾患別パスの運用等に関する説明会の開催について

① ブロック及び開催地について

・ 県北ブロック (大田原市)

= 塩谷郡市・那須郡市・南那須

・ 県央ブロック (宇都宮市)

= 宇都宮市・上都賀郡市・芳賀郡市

・ 県南ブロック (栃木市or小山市)

= 下都賀郡市・小山地区

・ 安足ブロック (足利市)

= 佐野市・足利市

統一パスを普及させるため、各地区ブロックで説明会を開催することを決定し、説明会は3疾患合同ではなく、疾患ごとに別の日程で開催することが決定した。(がんについては、がんセンターが郡市ごとに説明会を実施)

なお、日程(9~11月)および会場等については疾患別部会の各委員長へ一任することとした。また、参加者の募集は郡市医師会へ協力をお願いすることとした。

② 明者および進行について

統一パスの意義や、運用等に関する説明者も各疾患別委員長へ一任すると共に、司会進行は委員長が務めることを決定した。

(3) 普及促進のための役割分担について

① 郡市医師会

医療従事者向け研修会の継続的開催と市民向け講演会の開催など

② 県医師会

基幹病院等へパスの利用依頼やホームページへの掲載など

(4) 疾患別パスの利用状況把握について

がんはがん地域連携マネージャーWGがパスの利用状況の把握を担うが、他疾患においても、当該WGを活用することが可能であると尾澤医師より提案があった。

脳卒中・急性心筋梗塞・がんは基幹病院（急性期）で把握は出来るが、糖尿病については困難であり、検討が必要である。

また、疾患が重なることもあり、その取扱いについても議論され、病院・診療所において、パスを患者に発行した数を把握することで、利用状況把握に努めることとする。9月から説明会が実施され、折に触れて反省点やご意見をいただきながら、少しずつ前向きに進めていくこととした。